

トビウオ通信 (4月号)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 15 年度上半期浮魚中長期漁況予報》

平成 15 年 3 月に、東シナ海～日本海にかけての対馬暖流域における主要浮魚類（マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ）の長期漁況予報会議が開かれました。今月はこれをもとに、平成 15 年度前期（4～9月）の中・長期的な漁況の予測をします。

マアジ資源やや増加！？

大中型まき網による東シナ海～日本海南西海域におけるマアジ漁獲量（図 1）は、昭和 55 年以降増加傾向にありましたが、平成 7 年以降減少傾向にあります。平成 14 年の漁獲量は 3 万 8 千トンで過去 10 カ年平均の 60%にとどまりましたが、前年の 1.4 倍と、やや回復の兆しが見られます。今年の 1～3 月にかけて、九州沿岸海域において、1～2 歳魚を主体に豊漁が見られました。

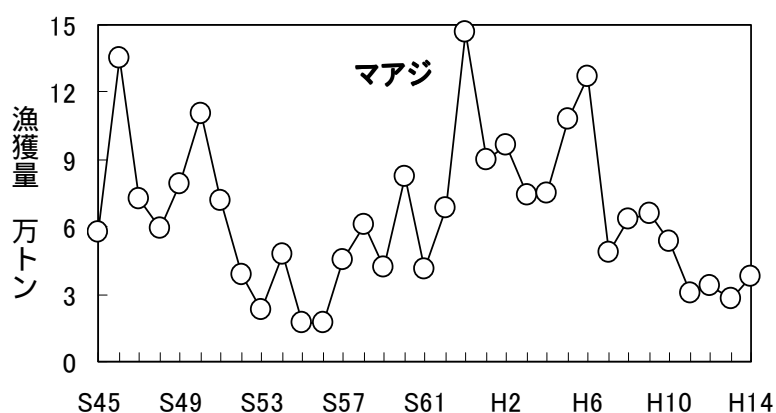


図 1 東シナ海における大中型まき網によるマアジ漁獲量

見られました。また、同時期に島根県から山口県の海域では、沖合底びき網で、例年を上回る漁獲がありました。このように、冬期にマアジの大量漁獲があるのは非常に珍しく、マアジの分布回遊や海洋環境に何らかの変化が起きている可能性があります。平成 14 年の発生状況は、発生時期がやや遅れたものの、例年並の量ではないかと思われます。今後の漁模様ですが、平成 13 年、14 年に発生した群れを中心に、昨年並かそれを上回る漁獲があるのではないかと考えられます。

マサバ資源回復の兆し？！

島根県～青森県にかけてのマサバ漁獲量（図 2）は、平成 6 年以降、減少傾向にあります。平成 14 年（2 万 1 千トン）は前年を上回りましたが、依然として低水準にあります。一方、対馬暖流系群の主分布域である東シナ海でのマサバ漁獲量は 3 万 5 千トンで、過去 9 カ年平均の 39%まで落ち込んでおり、低水準状況は対馬暖流

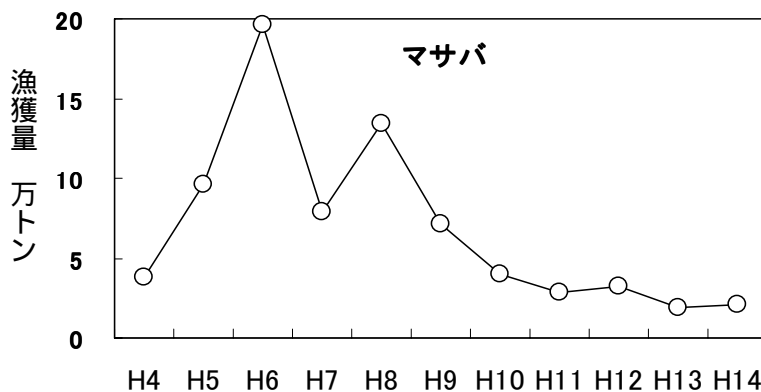


図 2 島根県～青森県におけるマサバ漁獲量

域全体の現象であるといえます。しかし、日本海南西部を中心に、昨年秋から、今年の 3 月までのマサ

バの漁獲状況を見ると、当歳魚を中心に堅調な漁模様で、平成 14 年に発生した当歳魚は比較的高い水準にあると考えています。この当歳魚が 1 歳、2 歳と成長して生き残ってくれば、マサバ資源の回復も期待されます。

マイワシ資源依然低迷！

島根県～青森県までのマイワシ漁獲量(図 3)は、平成 5 年以降減少傾向で、平成 14 年は 365kg で、ほとんど漁獲されないといった状況でした。東シナ海も含めた、対馬暖流域全体のマイワシ資源は、当歳魚の加入が極めて悪く、産卵する親魚が非常に低い水準にあることから、資源が急激に回復する可能性は低いと考えられます。

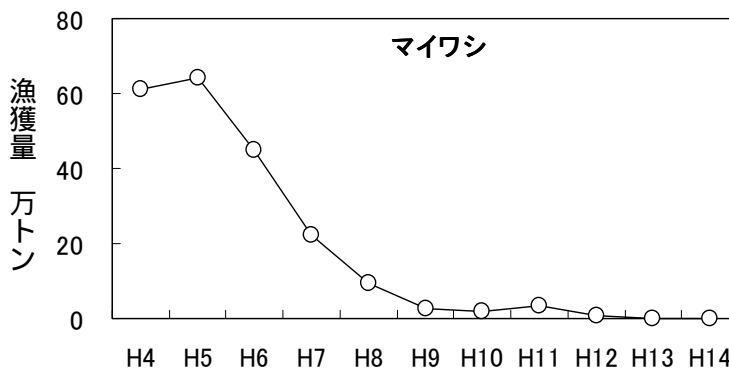


図 3 島根県～青森県におけるマイワシ漁獲量

カタクチイワシ増加！

島根県～青森県までのカタクチイワシの漁獲量(図 4)は近年増加傾向にあり、平成 12 年には 5 万 2 千トン余りの漁獲がありました。平成 13 年には 1 万トン程度まで落ち込みましたが、平成 14 年は 1 万 8 千トンと前年をやや上回りました。平成 14 年の秋季発生群の発生状況がやや良かったため、島根半島から隠岐島周辺海域では活発な漁が見られました。平成 15 年 1～4 月にかけて体長 12～14cm の大型魚を中心に漁獲が継続しており、前年を上回る漁獲となりそうです。

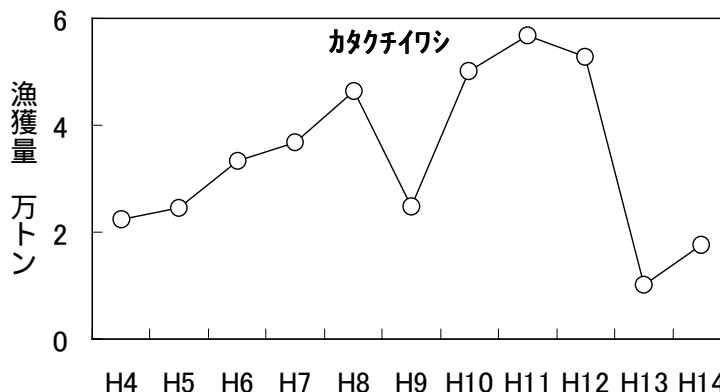


図 4 島根県～青森県におけるカタクチイワシ漁獲量

ウルメイワシ回復の兆し！

島根県～青森県のウルメイワシの漁獲量(図 5)は近年低水準にあります。対馬暖流域での主な漁場は、山陰～九州西岸域で、平成 14 年の漁獲量は 4,854 トンで前年をやや上回りました。昨年秋から今年の 3 月にかけては、平成 14 年に発生した群れを中心にやや回復の兆しが見られ、平成 15 年に新たに発生する群れが順調に加入すれば、今後の漁はやや期待が持てそうです。

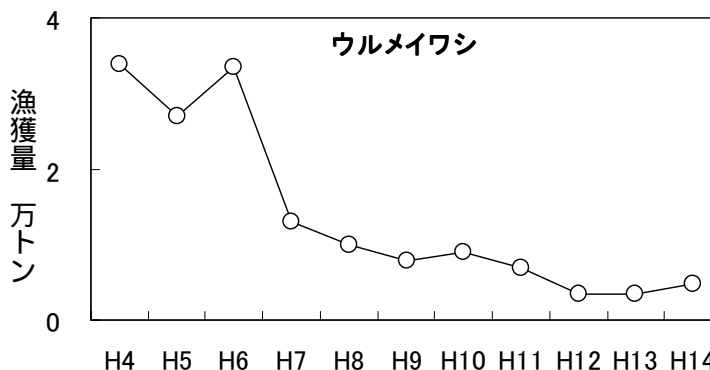
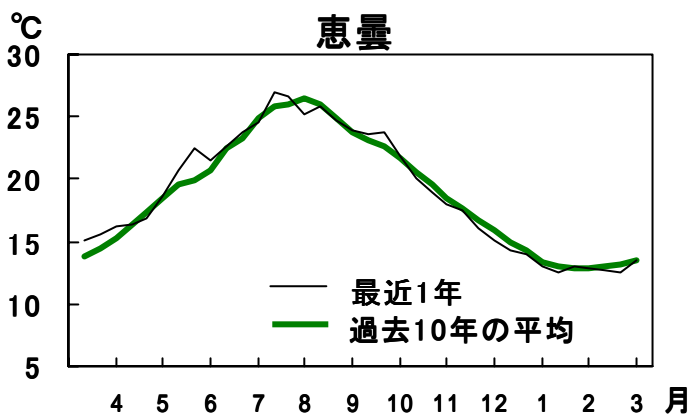
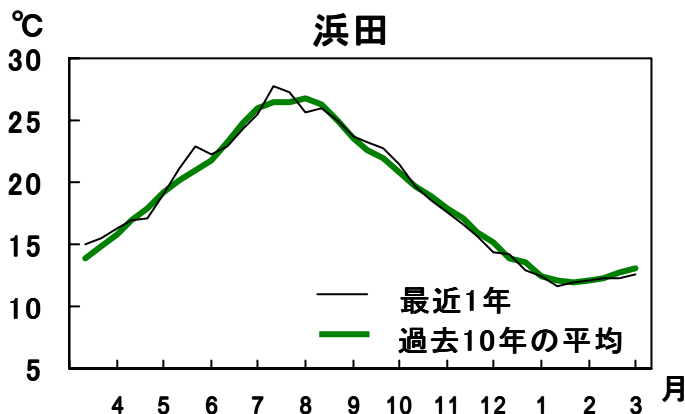


図 5 島根県～青森県におけるウルメイワシ漁獲量

《 3月の海況 》

3月	月平均	平年差	評価
浜田	12.4	-0.2	平年並み
恵曇	12.9	-0.2	平年並み

3月に入り水温も上昇し始め、月平均水温は2月に比べ浜田で0.5、恵曇では0.1高くなりました。浜田、恵曇とも「平年並み」の水温経過となりました。



島根県・鳥取県・山口県の各水産試験場が実施した海洋観測結果(4/7~10)によると、各層の水温は表層(0m)が10.7~14.9(平年差は-0.8~+1.5)、中層(50m)が10.2~14.8(平年差は-0.3~+2.5)、底層(100m)が5.5~14.8(平年差は-1.3~+4.5)となっていました。沿岸域の水温は、3月と比較し約1高くなりましたが、昨年と比較すると表層~底層まで約2も低い結果となりました。逆に、距岸60マイルの沖合域では水温が高く、平年(過去30年間)と比較して中~底層では約2~4も高い結果となりました。隠岐諸島の西北西約80マイルには冷水域が確認されましたが、その勢力は弱く、中心も沖合に形成されていました。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「やや低め~かなり高め」、中層では「平年並み~かなり高め」、底層では「やや低め~かなり高め」となっています。

《 3月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量はサバ類、マアジ主体に819トン、総水揚金額は4,780万円でした。1統当りの漁獲量は273トンで、平年(過去5年平均)の60%、前年の2.2倍となりました。水揚金額は1,600万円で、平年の81%、前年の2.4倍でした。西郷では、カタクチイワシ、サバ類、マアジ主体に総漁獲量4,896トン、総水揚金額は2億800万円でした。1統当りの漁獲量は699トンで、平年の83%、前年の4.7倍となりました。水揚金額は2,980万円で平年の103%、前年の3倍となりました。浦郷ではマアジ、カタクチイワシ、ウルメイワシ主体に総漁獲量1,428トン、総水揚金額は8,040万円でした。1統当りの漁獲量は357トンで、平年の109%、前年の4倍となりました。水揚金額は2,010万円で平年の1.6倍、前年の2.8倍となりました。島根県海域全体でマアジが好調となっています。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に339トンで、平年(過去5年平均)の3倍、前年の2.5倍と好調に推移しました。一方、西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に27.6トンで、平年の3.6倍、前年の9.7倍とこちらも好調となりました。浜田に水揚げされたスルメイカは20~30入りが主体となっています。

【沖合底びき網漁業】

浜田港では量・金額ともに前年並みの水揚げ状況でしたが、1統当たりで見ると、前年に比べ漁獲量で10%、金額で15%下回っています。近年、ケンサキイカは3月にまとまって漁獲されていましたが、低調に推移し、前年の50%に留まっています。またマアジがまとまって漁獲(64トン)されたことも特徴的でありました。

恵曇港では、総漁獲量は平年を12%上回りましたが、総水揚金額は6%下回りました。アカガレイが安定して漁獲され、好調に推移しました。また浜田港では低調なソウハチがまとまって漁獲され、平年の2.3倍の漁獲がありました。

【小型底びき網漁業】

和江、大田市漁協では出漁日数が前年より3割程度増加したため、量・金額ともに前年を約6～33%上回りました。また、1日1隻当たりで見ると漁獲量は前年を5%上回りましたが、金額は5～15%下回りました。和江漁協ではソウハチ、ハタハタ、アンコウが、大田市漁協ではニギス、ソウハチ、ハタハタがまとまって漁獲されています。特にハタハタは今漁期は好調に推移しており、今後もまとまった漁が期待されます。

【定量網漁業】

県東部では漁獲量は平年を下回りましたが、水揚金額は前年および平年を上回りました。県西部では漁獲量は前年および平年を大きく上回りましたが、水揚金額は平年並みとなっています。隠岐地区では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を上回りました。県東部ではブリ、スズキ、マアジ、ヤリイカが主体となっており、ブリは前年の約10倍、ヤリイカは約2.5倍の漁獲量となっています。県西部ではマアジを主体にヤリイカ、ブリが漁獲されており、マアジは前年の約6倍の漁獲量となっています。隠岐地区ではスルメイカを主体に、ヤリイカ、マアジ、メダイが漁獲されています。ヤリイカは前年の約3倍の漁獲量となっています。

【釣・縄】

県東部では水揚げ日数の減少もあり、漁獲量・水揚金額とも前年および平年を大きく下回りました。県西部では漁獲量は前年および平年を上回りましたが、水揚金額は前年および平年並みとなっています。隠岐では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を上回りました。県東部ではスズキ、ヤリイカが主体で、ヤリイカは前年の約1.6倍の漁獲量となっています。県西部はメダイ、スルメイカが主体となっており、メダイ、スルメイカともに前年の約2倍の漁獲量となっています。その他ではアマダイが前年の約2.4倍の漁獲量となっています。隠岐ではメダイ、スルメイカが主体で、メダイは前年の約10倍、スルメイカは前年の約3倍の漁獲量となっています。その他ではヤリイカが前年の約20倍の漁獲量となっています。

漁獲統計

平成 15年3月1日～31日

漁業種類	水揚港	延隻数 ・統数	主要魚種	1隻(統)1航 海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	29	サバ類、マアジ	28ト	819ト
	西郷	74	カタクチ、マアジ、サバ類	66ト	4,896ト
	浦郷	58	マアジ、カタクチ、ウルメ	25ト	1,428ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	760	スルメイカ	446kg	339ト
	西郷	324	スルメイカ	192kg	62ト
沖底	浜田	36	ムシガレイ・ケンサキイカ・スルメイカ	10.9ト	393ト
	恵曇	32	アカガレイ	5.5ト	176ト
小底	和江	472	ソウハチ	649kg	306ト
	大田市	335	ニギス・ソウハチ・ハタハタ	541kg	181ト
定置網	浜田	18	ヤリイカ、マアジ、スルメイカ	90.3kg	1.6ト
	美保関	134	スズキ、マアジ、ブリ	275.5kg	36.9ト
	浦郷	131	スルメイカ、ヤリイカ、マアジ	731.1kg	95.8ト
釣・縄	浜田	887	スルメイカ、メダイ、アマダイ	20.7kg	18.4ト
	五十猛	332	メダイ、カサゴ・メバル類、スルメイカ	29.9kg	9.9ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。

定置網(浜田)は1ヶ統のデータ。